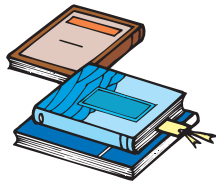


ほんの森

図書館 ☎84-3311



図書館休館日

毎週月曜日

日曜映画会

『バットマン マスクの怪人』

と き 4月20日(日)
午前10時・午後2時
上映時間 1時間17分
ところ 2階ハイビジョンホール
定 員 各回 先着100名
※整理券は不要です



金曜映画会

『チャップリン作品集 キッド』

と き 4月25日(金)
午後2時から
上映時間 56分
ところ 2階ハイビジョンホール
定 員 先着100名
※整理券は不要です



文芸

◆俳句

一服に戴く和菓子春炬燵 浅野 茂子
 結果待つ待合室の余寒かな 池田 逸子
 料峭や港に続く干物店 伊藤 敬子
 春泥ややわら陽覗く切り通し 今関満喜子
 深呼吸胸の奥まで花菜色 江森 悦子
 春灯や遺影やさしき友の葬 大木 素風
 見事なり花は身頃河津の里 大谷 武彦
 はだれ雪おくずれ郷の宮由來 川島 孝夫
 春燈に軸の漢詩を声にする 川島 通則
 玄閑に今年もそーつと落の臺 桑名 大行
 山菜摘む里の媪や斑雪 向後 寛
 電線に雀の音符春の歌 小松 藤男
 廢船の下草萌へる九十九里 佐瀬 輝夫
 一日の善きこと記す春燈下 椎名万理子
 農機具の落す春泥かたまりて 玉虫 栗扇
 春燈下ペタルフム子の影二つ 土屋美枝子

◆短歌

春宵や大浦ごぼう口に解け 戸村 静華
 春泥は車の世の中消され行く 長谷川正子
 畦焼くや土黒々と盛り上る 福田 幸子
 さきがけの紅梅の香や峡の里 布施 和代
 啓蟄や日溜の蟻黒光 山口 一秋
 一またぎ又一またぎ春の泥 山口 とし
 立春の九十九里浜耀へり 渡部 和秋
 寒明けて春となりしがこの宵も 音まで凍むる思ひに浸る 永籐 滋
 幼よりバレンタインのチョコ貰ひたる 夫は掌にのせ撫でてあるなり 押尾 輝子
 右の手を傷めし友が左手に 書きたる文字の線の優しも 池田 春江
 大寒の透き徹るまで晴れし空 青き色せる風の吹きゆく 平山 芳子
 古い吾は煩はしさに堪えにつつ 確定申告の書類調ふ 吉岡 信子
 寒風の畑に立つ友大根を 抜きくれ手を振り見送りくる 西山満里子
 白く咲く梅の陰より群雀 佐瀬 初音
 花びら散らし飛び立ちゆけり 香り立つ路のとう刻み味噌に和へ 朝餉の卓にそつと置きたり 鈴木まさ子
 縁側ででんぐり返しを繰り返し テリヤのコタロー光と遊ぶ 八角 三枝
 予てより一度は来たしと思ひるし 花の美術館の前に立ちたり 田崎 尚美
 風邪に臥す吾に先生は鳥の声 聞きませと電話に春をくださる 芹川 初子
 六といふ数飛ばしつと四歳の 幼は数を唱へあるなり 島田ますみ
 ただ独り岩手の山に暮したる 光太郎思ふ一人居吾は 斉藤つね子
 自衛艦衝突事故のおそろしき 平和に馴るるたるみあるのみ 鈴木 益郎
 だんだんと年重ね行き着膨れて 物忘れ多くしつかりせねば 高梨 キヨ
 春燈の艶めく中にひそひそと 二人の会話夜の更けるまで 土屋 好
 看護師の姪は倒れてクモ膜下 激務の故かとその身を案ず 安田マサ子
 ドア開けてはとたじろぐ亡兄あとぞ 無沙汰の詫と訪ね来し甥 越川 福子